



パーソン・センタード・ケアの理解

もくじ

- II-① 認知症の人を理解する手がかりを見つけましょう
- II-② 5つの要素
- II-③ 要素.1 脳の障害
- II-④ 要素.2 健康状態
- II-⑤ 要素.3 生活歴
- II-⑥ 要素.4 性格
- II-⑦ 要素.5 環境(対人的、社会的、物理的)
- II-⑧ 認知症ケアの目標は何ですか?
- II-⑨ 認知症の人の心理的ニーズ
- II-⑩ くつろぎ
- II-⑪ 自分が自分であること
- II-⑫ 結びつき(愛着・こだわり)
- II-⑬ たずさわること
- II-⑭ 共にあること
- II-⑮ よい状態とは?
- II-⑯ よくない状態とは?
- II-⑰ よくない状態に向かわせる状況



なぜこういう
行動が起こるの
でしょうか?



認知症の人を理解する 手がかりを見つけましょう。

パーソン・センタード・ケアの視点を活かして

暴言・暴力

実は…

「子ども扱いしないで欲しい」
という訴えかもしれません

人の助けは
借りたくない!
(介護拒否)

実は…

「人に迷惑をかけたくない」
という性格の表れかも
しません

落ち着きなく
歩き回る
(徘徊)

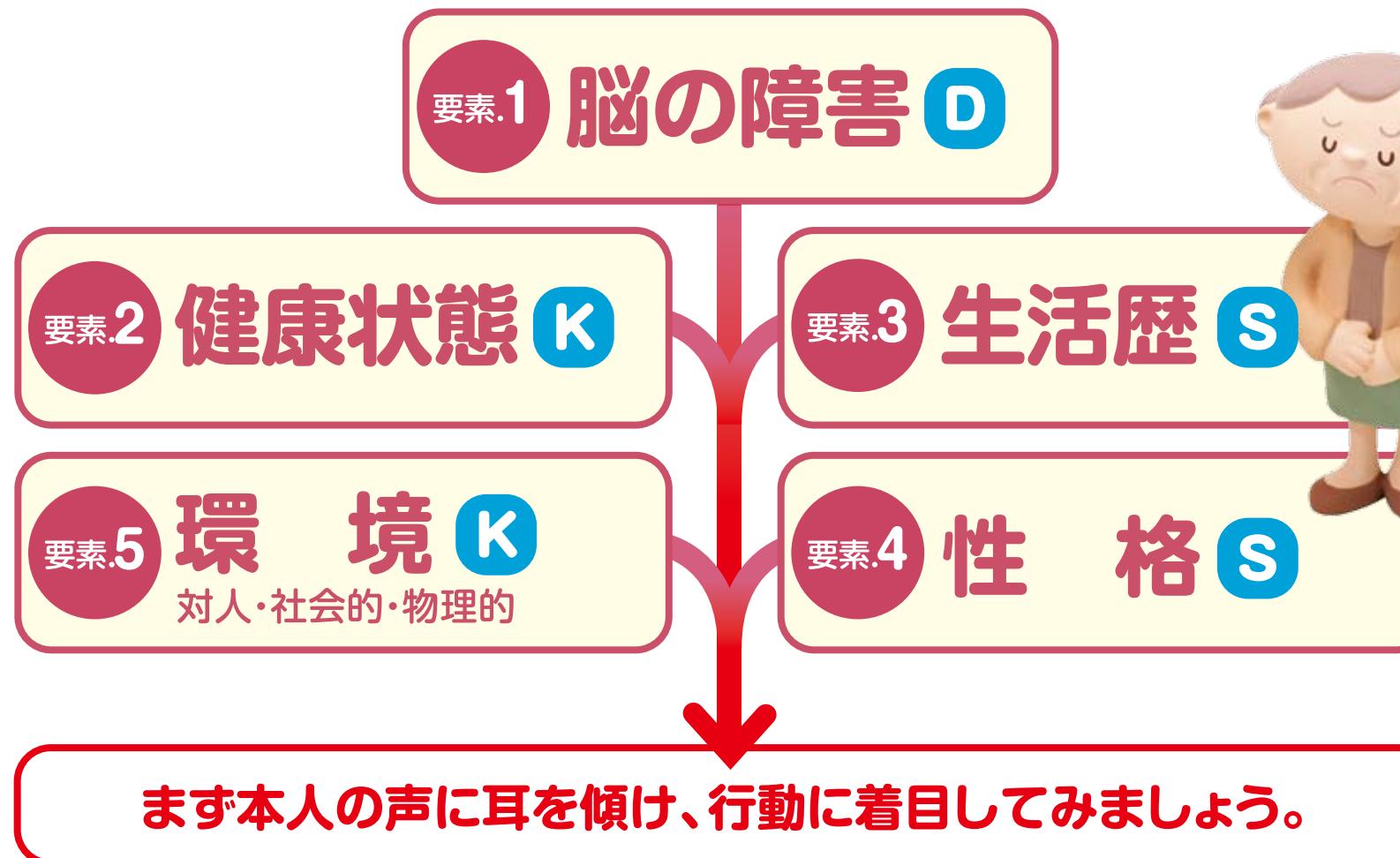
実は…

「お腹の具合が変だけど、
どうすればよいのか分からぬ」
という体調不良のサインかも
しません





認知症の人を理解する手がかり－5つの要素－





要素.1 脳の障害 DementiaのD

脳の障害は、認知症の人の行動にもっとも影響をおよぼす要素です。さまざまな認知機能が衰えることで、認知症の人は、まるで濃い霧に包まれたような、大きな不安感や不快感を抱えていると言えます。

次のような障害を抱えて、認知症の人は不安や不快を感じていませんか？

- 最近のことを記憶できない
- 今がいつで、ここがどこかわからない
- 言葉を聞いても理解できない、うまく話せない
- 動作の手順や物の扱い方がわからない
- 普通と違ったように物が見える、など





要素.2

健康状態 けんこうのK

感覚機能（視力、聴力）、合併疾患、薬の副作用など

次のような体調不良を抱えて、認知症の人の不快感が更に増していませんか？

- ・感染症、便秘、脱水、栄養失調など
- ・糖尿病、心疾患などの合併疾患の悪化など
- ・骨折、皮膚疾患などが原因の痛みやかゆみなど
- ・薬物の過剰投与の影響、薬の副作用など

次のような感覚機能の衰えによって、不安感や不快感が更に増していませんか？

- ・白内障、緑内障などで目がよく見えない
- ・片方または両方の耳が悪く、よく聞こえない
- ・メガネや補聴器が合っていないなど





要素.3 | 生活歴 せいかつれきの(S)

次のような過去の情報が、ケアに活かされていますか？
また、過去の情報と現在の生活でズレが生じていませんか？

- 過去の職業
- 習慣やこだわり
- 好きなことや得意なこと
- 嫌いなことや苦手なこと
- 暮らしてきた地域 など





要素.4 性格 せいかくの(S)

同じ出来事が起こっても、対処方法は人によってさまざまです。例えば、他人に怒られた時、逃げ出す人もあるれば、言い返す人もあるでしょう。このように、一人ひとり違った行動をとるのは、その人のもともとの性格の影響が大きいと言えます。

例えば…

社交的



人づきあいが苦手

他人の世話にはなりたくない



人に頼りたい

気が短い



気が長い

このように正反対の性格の人では、表れる行動も全く違うかもしれません。





要素.5 環境 かんきょうのK 対人的・社会的・物理的環境

認知症になつても、感情やプライドは豊かに残つております。
周囲の人が自分をどのように思つてゐるかをむしろ敏感に感じ取つています。

例えば、このような関わりで、本人の感情やプライドをひどく傷つけていませんか？

- まるで子どもに対するかのような態度で接する
- 何もわからない人のように扱つて、本人をのけ者にする
- その場しのぎのうそをつく





認知症ケアの目標はなんですか？

ひとりの人として周囲に受け入れられ、尊重されること

ひとりの人として、周囲の人や社会と関わりを持ち、受け入れられ、尊重され、それを実感している、その人のありさま。

人として、相手の気持ちを大事にし、尊敬しあうこと。

互いに思いやり、寄り添い、信頼しあう、相互関係を含む概念。

(出典：パーソン・セントード・ケアと認知症ケアマッピング 第8版 日本語版第3版)

故トム・キットウッド教授（英国）は、
このように感じている、ご本人の気持ちのありさまを、
『パーソンフッド』と呼び、パーソン・セントード・ケア
の根幹の考え方としました。

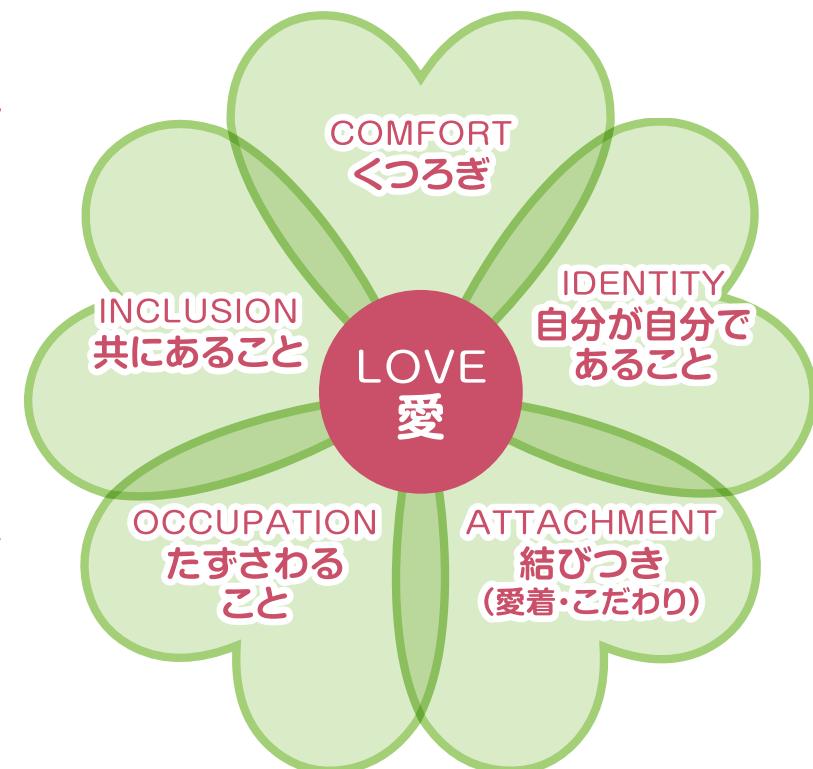




認知症の人の心理的ニーズ

認知症をもつ人々が、暴力などの“介護者から見て不適切に見える行動”をする時、自ら抜け出すことのできない深い霧の中でさまよっているのかもしれません。

「今、どんなニーズが満たされていないのだろうか」と考えることは、霧の中にいるその人を怖がらせることなく、一歩近づく鍵になると思います。





認知症の人の心理的ニーズ

くつろぎ

この言葉のもともとの意味は、
「優しさ、親密さ、苦痛と悲しみを和らげること、
不安を取り除くこと、他人と親密になることから
生まれる安心の感情」

(DEMENTIA RECONSIDERED Tom Kitwood／高橋誠一訳)

だと言われますが、まずは最低限、身体的な苦痛
がないことが必要です。





認知症の人の心理的ニーズ

自分が自分であること

この言葉は、自分が他の誰とも違う自分であることを知り、過去からつながって今存在しているという感覚をもつことを表します。





認知症の人の心理的ニーズ

結びつき(愛着・こだわり)

この言葉は、誰か他の人との絆や結びつき、あるいは特定の物や行為への愛着やこだわりなどを意味しています。





認知症の人の心理的ニーズ

たずさわること

もともとはoccupationであり、職業などと訳される言葉です。

しかしここでは、仕事に限定されるのではなく、自らの能力を使って進んで何かを行おうとするという広い意味で用いられています。

農作業や家事などの仕事や誰か他の人の世話、あるいは趣味の活動や自らの身なりを整えることなど、日常の場面でよく見られる行動です。





認知症の人の心理的ニーズ

共にあること

これは文字通り、社会から排除されず、人や社会とのつながりの中で生きていることを実感したいというニーズです。

一人で生きることを好む人もいると言われますが、それは「いつでも必要な時に他者と関わることができる」あるいは、「直接的な関わりがなくても、他者の存在を感じられる」という条件が整っている場合です。





よい状態とは？

よい状態 の目安 (サイン)

- ゆったりしていること
- 周囲の人に対する思いやり
- ユーモア
- 喜びの表現
- 人に何かをしてあげようとする
- 自分から社会と接触すること
- 愛情を示すこと
- 自尊心(汚れ、乱れを気にする)
- あらゆる種類の感情を表現すること





よくない状態とは？

よくない 状態 の目安 (サイン)

- がっかりしている時や悲しい時に放ったらかしにされている状態
- 強度の怒り
- 不安
- 恐怖
- 退屈
- 身体的な不快感
- 身体の緊張、こわばり
- 動搖、興奮
- 無関心、無感動
- 引きこもり
- 力のある他人に抵抗することが困難





よくない状態に向かわせる状況

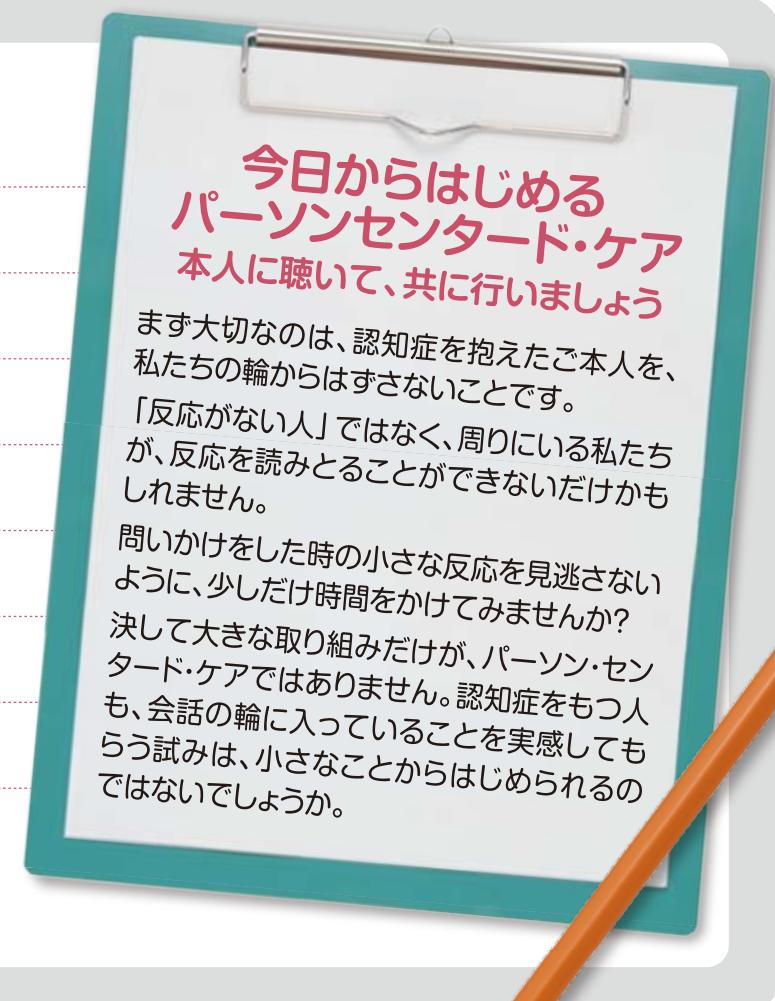
- だましたり、あざむくこと
- 能力を使わせない
- こども扱いすること
- 怖がらせること
- 急がせること
- わからうとしないこと
- のけ者にすること
- 後回しにすること
- 無視すること



今日からはじめる
パーソンセントード・ケア
本人に聴いて、共に行いましょう

まず大切なのは、認知症を抱えたご本人を、
私たちの輪からはずさないことです。
「反応がない人」ではなく、周りにいる私たち
が、反応を読みとることができないだけかも
しません。

問いかけをした時の小さな反応を見逃さない
ように、少しだけ時間をかけてみませんか?
決して大きな取り組みだけが、パーソン・セン
タード・ケアではありません。認知症をもつ人
も、会話の輪に入っていることを実感して
もらう試みは、小さなことからはじめられるの
ではないでしょうか。



発行／社会福祉法人 仁至会
認知症介護研究・研修大府センター
〒474-0037 愛知県大府市半月町三丁目294番地
TEL:0562-44-5551 FAX:0562-44-5831

印刷／有限会社 一粒社
〒475-0837 愛知県半田市有楽町7-148-1

無断転写・転記・複写を禁ず。
このパンフレットは平成21年度独立行政法人福祉医療機構「長寿・社会福祉基金」助成事業により作成されたものです。

